

動植物

とち鹿追ジオパークの多様な地形は、さまざまな棲息地や種を支えています。耕作可能で、土壌に灰分が豊富に含まれている十勝平野では、昔から農業が栄えていました。鹿追北部に位置する然別山地には、豊かな生態系とマイクロ生態系があり、多様なコケ類や地衣類に加え、独自の進化を遂げた依存種の動物が存在しています。

平原地帯

十勝平野は、北海道最大級の農業地帯で、全国各地に作物や乳製品を供給しています。豆類、ジャガイモ、麦、サトウダイコンなどは、平野の各地で順に育てられており、いずれも国内生産高は上位です。乳牛が牧草を食べ、エゾジカが鹿追周辺の平地を自由に歩き回ります。キタキツネとヒグマも、十勝平野に棲息しています。ヒグマは、日本でも北海道以外では見られません。

山岳地帯

然別火山群の山頂は標高約 1,300 メートルにも及び、804 メートルという北海道で最も標高の高い場所にある然別湖を囲みます。この辺りの山々や湖は、多くの鳥類、水鳥、サケ科の魚、そしてキタナキウサギの亜種であるエゾナキウサギなどの寒冷気候動物の棲息地にもなっています。湖の上空にはシマフクロウが一年を通して飛び回り、冬にはオオワシがこの辺りに渡ってきます。温かい時期にはミサゴが湖の上空で狩りをし、春にかけてはクマゲラが木の幹に巣をつくります。イワナは、独自の進

化を遂げたオショロコマの亜種で、ここ以外では世界のどこにも棲息していません。この他に、ジオパークの山岳地帯で見られる北海道固有の亜種としては、夜行性のエゾモモンガやヒグマがいます。

湖周辺の高木限界線より下には、深い常緑樹の森が広がっています。この辺りの森は、アカエゾマツ、エゾマツ、トドマツといった耐寒性の植物で構成されています。白い花を咲かせるラブラドルチャヤ、淡いピンクの花を咲かせるハクサンシャクナゲなどの高山植物は、山腹や林床に生えます。然別溶岩ドームのゴツゴツした斜面に点在する風穴には、独自のマイクロ生態系があり、多様なコケ類や地衣類のコロニーを支えています。